

## 令和 6 年能登半島地震に関する報告会を開催しました (2024/5/8)

テーマ：令和 6 年能登半島地震、医療支援、人間行動の分析、調査・被害分析、復興に向けて  
会場：オンライン

令和 6 年能登半島地震の発生から約 4 カ月経過した 5 月 8 日、現地調査や各種分析の成果を報告するために、「令和 6 年能登半島地震に関する報告会」(第 86 回 IRIDeS オープンフォーラム) をオンラインで実施しました。「医療支援」「人間行動の分析」「調査・被害分析」「復興に向けて」という 4 つの領域で 13 の発表を行いました(下記参照)。報告会には全国から約 300 人が参加し、その様子は新聞やテレビなど多くのメディアでも報道されました。

報告会は当研究所の YouTube チャンネルにも掲載しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=AUDntCSzoYE>

### 【プログラム】

#### 1. 開催挨拶と趣旨説明

栗山進一(東北大学災害科学国際研究所 所長)

#### 2. 報告

##### ■医療支援

- 令和 6 年能登半島地震後一か月間のメンタルヘルスニーズ  
國井泰人(災害精神医学分野)
- 能登半島地震での DMAT 及び災害医療コーディネーションサポートチーム活動  
佐々木宏之(災害医療国際協力学分野)、稲葉洋平(災害放射線医学分野)

##### ■人間行動の分析

- 令和 6 年能登半島地震前後の人流解析  
永田彰平、マス エリック、武田百合子、越村俊一(災害レジリエンス共創センター)
- 帰省等で普段いない場所で地震に遭遇した住民の対応行動  
佐藤翔輔(防災社会推進分野)、今村文彦(津波工学研究分野)、岩崎雅宏(株式会社サーベイリサーチセンター)

##### ■調査・被害分析

- 余震分布および津波・GNSS 観測記録に基づく令和 6 年能登半島地震の断層モデルの推定  
水谷歩(災害ジオインフォマティクス研究分野)
- 令和 6 年能登半島地震に伴う内灘町の液状化被害と地形発達・人工地形改変の関係  
原勇貴(都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門)、遠田晋次、高橋尚志(陸域地震学・火山学研究分野)、塚脇真二(金沢大)、鳥井真之(熊本大)
- 令和 6 年能登半島地震による建物被害調査  
榎田竜太、大野晋(地震工学研究分野)
- 津波避難の課題等 —メディア情報から見えること  
今村文彦(津波工学研究分野)、佐藤翔輔(防災社会推進分野)、牧野嶋文泰(津波工学研究分野)
- 津波の数値解析、痕跡調査  
サッパシー アナワット、増田英敏(津波工学研究分野)
- 津波による土砂移動と堆積物  
菅原大助(津波工学研究分野)、石澤亮史(陸域地震学・火山学研究分野)

(次頁へ続く)

■復興に向けて

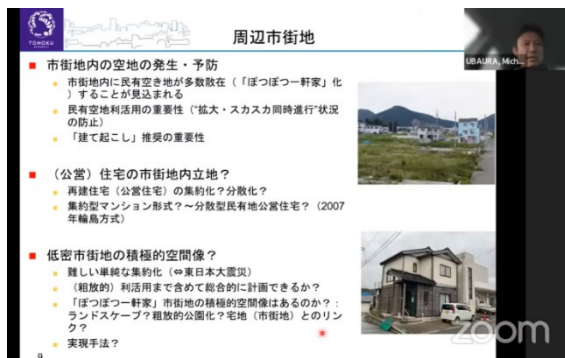
- 少子高齢化および過疎化社会における能登半島地震  
村尾修（国際防災戦略研究分野）
- 令和6年能登半島地震における学校教育支援の現状と展望：情報と身体性、それから  
齋藤玲（認知科学研究分野／大学院情報科学研究科）、小田隆史（東大）、桜井愛子  
（防災教育実践学分野／神戸大）、佐藤健（防災教育実践学分野）、福島洋（陸域地震  
学・火山学研究分野）
- 能登半島地震からの空間的復興の論点  
姥浦道生（空間デザイン戦略研究分野）

3. 閉会挨拶

小野裕一（東北大学災害科学国際研究所 副所長）

司会：森口周二

報告会の運営は、IRIDeS オープンフォーラムメンバー（野村怜佳助教、乗松君衣助手、林宏典助教）と広報室が支援しました。



復興とまちづくりについて報告する  
姥浦道生教授



司会の森口周二准教授（左上）と、質疑に  
答えるサッパシー アナワット准教授（右  
上）、今村文彦教授（下）

文責：今野公美子（広報室）